

# 職場体験レポート

作成者

愛南町立御荘中学校

3年 氏名：芝 晃司



## 職場の紹介

### 南予水産研究センター

創業：船越ステーション平成 20 年  
西浦ステーション平成 25 年  
住所：愛南町船越 1289-1 愛南町内泊 25  
特色：研究・教育施設

最先端の生命科学による高度な生産技術の開発、環境科学による養殖漁場環境の保全、社会科学に基づく地域水産業システムづくりといった「生命」「環境」「社会」の三者に軸を置いた独自の「水産学」を目指しています。



こんな職場です！

事業所の写真



## 職場で体験したこと



水産研究センターでは、魚に関する様々な研究が行われていました。まず、養殖しているスマの餌やりを体験しました。スマは小型で飼いやすく、美味しいマグロ類の魚です。一度に多くの餌をすくって生簀に入れるので、とても重く重労働でした。餌を食べようとするスマの姿は、とても迫力がありました。別の日には、船で沖に行き、ロープや水温計の掃除をしました。ゴミや貝がたくさん付着しており、それらを一つ一つ手作業で外します。船に揺られながら下を向いて作業をしたので、酔ってしまいました。地味だけど作業を丁寧にしておかなければ美味しい魚は育たないのだと、実感しました。

平城小学校へ行き、「ぎょしょく教育～ちりもんを探せ！～」の手伝いをしました。ちりめんの中から、ちりめん以外の生き物を探します。エビやカニ、タツノ

ノオトシゴを発見しました。小学1年生の相手は大変でしたが、みんなの笑顔で幸せな気分になりました。

養殖をしている魚の中には死んでしまうものもいます。なぜ死んでしまったのかを調査するため、魚の解剖を行いました。寄生虫や使用する薬品、臓器について詳しく知ることができました。病気を特定することで、これ以上被害を大きくしないようにする責任の重さを感じました。



## 体験学習を通して

### うれしかったこと、うまくできたこと

「ぎょしょく体験事業」で小学校へ行ったとき、「ありがとう」と感謝の言葉をいただき、とてもうれしくなりました。また、病原体を見付けるために魚をさばくのは初めてのことでしたが、慣れるにしたがって上手にすることができました。

### 大変だったこと、失敗したこと

船の上で、下を向いたままロープの掃除をしたことが大変でした。毎回、この仕事をしている方はすごいなと思いました。やはり、どんな仕事にも慣れは必要なのだとわかりました。私も、これからたくさん経験を積んでいきたいです。

## 感想

### 働く人の姿から学んだこと

「何事にも真剣に取り組む」ということを学びました。最初の講話では専門的な言葉が多く、理解できない部分もありましたが、私たちの目を見て真剣に話してくださいました。私たちもその真剣さを見習わなければならないと強く感じました。

### 全体を通して学んだこと

「夢を持つこと」の大切さを教えていただきました。職場の方にインタビューすると、「小学生の頃から魚の研究をしたかった」と答えてくださいました。私も、自分自身の夢を叶えるために頑張りたいです。